

北大パイオニア人材協働育成システムの構築

(実施期間：平成 21～25 年度)

実施機関：北海道大学（総括責任者：山口 佳三）

プロジェクトの概要

多くの有能な若手博士人材が産業界へ進出する好循環を作り出すため、国内外の企業におけるインターンシップ（他流試合）を中心とする実地型の育成プログラム（実践プログラム）を実施する。

多様な人材育成事業と連携しつつ、自然科学系を中心とした博士人材（博士研究者(PD)および博士課程（後期）学生(DC)）を対象に受講生を募集する。能力適性選抜後、プログラム採用者には賃金やプログラム参加費等の支援を行い、パイオニア実践プログラム（北大諮問連携企業群等での長期インターンシップ及びキャリア形成活動）への参加を義務付けることで、若手人材と産業界の相互理解を促しつつ、個々の能力を社会の多様な活動に結びつける能力と自信を持った博士人材を養成する。本事業は、北海道大学が中心となり、地域大学（室蘭工業大学・北見工業大学・帯広畜産大学）および企業と協働して推進することで、産業界のニーズを十分反映させるとともに大学と企業の相互理解を促進しつつ地域に展開する。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	イノベーション人材養成システム改革状況	実践プログラムの開発・運用状況	実施体制	今後の進め方
S	a	s	s	s	s

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

(2) 評価コメント

プログラム全体を既存の仕組みと上手く連携し、論理的に、かつ、階層的な広がりを持たせつつ構築している。所期の計画を超えた取組内容は、他機関へのモデルケースとなる。特に、ライフサイエンス人材の養成に注力し、多数の企業との連携、博士人材と企業との綿密なマッチングの実施により、ライフサイエンス人材の異分野への新たな活用を見出したことは高く評価できる。今後、更に養成人数を増やすなど機能的に継続するとともに、構築したシステムをパッケージ化して他大学へ展開することを期待する。

・**目標達成度**：博士人材養成のためのしっかりした実践プログラム、キャリア支援システムを構築し、プログラムの一部を大学院カリキュラム化した。構築した博士人材養成システムが全学的に機能していることは高く評価できる。養成修了者数は目標に若干及ばなかったが、当初目的の「PD/DCの企業への送り込み」、ライフサイエンス人材の異分野へ輩出など、高い成果が得ら

れている。また、他の人材育成プログラムと有機的に連携し、全学的な人材育成システムとして機能させている。

・**イノベーション人材養成システム改革状況**：産業界へ輩出した博士人材が企業の立場から本事業を支援する還流支援の仕組みを取り入れ、イノベーション人材の教育・養成システムを創造し、被養成者だけでなく全学的な博士人材の養成にも貢献しており、高く評価できる。特に、ライフサイエンス系の博士人材、教員、企業3者において劇的な意識改革が進んでおり、それに基づく行動改革も始まっている。

・**実践プログラムの開発・運用状況**：プログラム全体として、企業とも情報共有を図りながら階層的な実践プログラムの開発と運用を行った結果、所期目標を超える成果を得ており、道内連携3大学との密な連携を構築し、プログラムを運用したことは高く評価できる。今後の継続では、養成対象者の規模を広げる努力、海外長期取組を増やすことを期待する。

・**実施体制**：既存のプログラムと上手く融合し、機動性の高い実施体制を構築し、本事業を着実に実施していることは高く評価できる。企業側の意見を取り入れ、PDCAサイクルを効果的にまわして実践プログラムの改善を進め、大学研究の社会実装につながる活動へと展開した。道内の3大学との連携も進め、地域の中核拠点としての働きも評価できる。

・**今後の進め方**：システムが完成し学内に定着しており、総長のマネジメントと十分な資金の下で継続発展ができる体制にあり、高く評価できる。担当者の力量、熱意に依存することなしに継続可能な機関としての仕組み化を望む。ライフサイエンス系博士人材へのキャリア支援に実績をあげており、全国的なモデルケースを構築した。今後はそのノウハウ等の他機関への展開を期待する。